



## 《会計・税務の知識》 会社が病気になる前に。ローカルベンチマーク

### はじめに

わが国では急激な人口減少や地方から首都圏への人材流出が進んでおり、地域経済を持続させていくためには、地域企業の生産性向上が不可欠であると考えられています。また、地域企業においては付加価値を生み出しつつ、雇用を創りつつけていくことも同時に求められています。

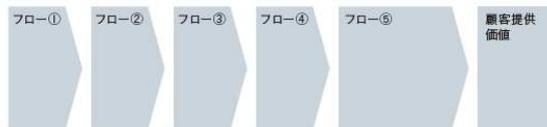
そのような環境の中、平成28年3月、地域の金融機関や支援機関等が企業と対話を深め、さらに生産性向上に努める企業に対し、成長資金を供給するよう促していくことを目的にローカルベンチマークが策定されました。

### 1. ローカルベンチマークとは？

ローカルベンチマークは、企業の経営状態の把握、いわゆる「健康診断」を行うツール（道具）として、企業の経営者等や金融機関・支援機関等が、企業の状態を把握し、双方が同じ目線で対話を行うための基本的な枠組みであり、事業性評価の「入口」として活用されることが期待されるものです。

具体的には、「参考ツール」を活用して、「財務情報」（6つの指標※1）と「非財務情報」（4つの視点※2）に関する各データを入力することにより、企業の経営状態を把握することで経営状態の変化に早めに気づき、早期の対話や支援につなげていくものです。

#### ●製品製造、サービス提供における業務フローと差別化ポイント



#### ●商流把握



### 2. ローカルベンチマークの構成

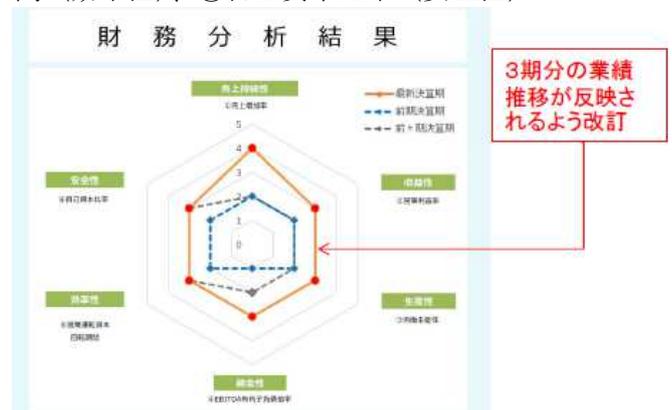
(1) 財務情報（財務分析シート※レーダーチャート）

採用している6指標はより対話のきっかけとして有効と考えられる指標です。具体的には、企業経営者にとって腹落ちしやすく、金融機関・支援機関等の利用者にとってもシンプルで分かり易い6指標を選定しています。

※ローカルベンチマークの財務情報部分では、個

別企業の格付を目的としたものではなく、あくまで事業性を理解し、健康診断を行うための参考情報としての活用を前提としています。

※6 指標：①売上高増加率（売上持続性）、②営業利益率（収益性）、③労働生産性（生産性）、④EBITDA有利子負債倍率（健全性）、⑤営業運転資本回転期間（効率性）、⑥自己資本比率（安全性）



(2) 非財務情報の活用（非財務ヒアリングシート）  
財務情報は過去の企業活動の「結果」であり、その背景にある事業への理解が欠かせません。今後どのような点を改善すれば「健康」を維持・回復できるのかといったことを企業経営者と金融機関・支援機関が対話を通じて考えるために、非財務情報の把握、掘り下げは最も重要な要素と位置づけられています。

（出典：経済産業省 ローカルベンチマークパンフレット）

### おわりに

中小企業等経営強化法（平成28年7月1日施行）での活用経営力向上計画策定の際の経営分析にローカルベンチマークの財務指標等の活用が推奨されています。

計画について国の認定を受けた事業者は、固定資産税が3年間1/2に軽減される等の措置を受けられます。

これを機に、是非、活用しましょう。

（担当：横瀬）